



八中だより



令和7年5月9日 5月号
調布市立第八中学校
校長 馬場 誠

HP : <http://www.chofu-schools.jp/chofu8/>

地域社会を支える大人になるために

校長 馬場 誠

「お昼ご飯はまだかね?」「やだ、おじいちゃん、さっき食べたばかりじゃないの。」「いいや、食べとらん!」「食べました!」「食わせないつもりか!」……認知症のおじいさんとお嫁さんの会話。深刻な話をユーモラスなお芝居で表し、生徒たちは身を乗り出して見ていました。



先日行われた「認知症サポーター講座」の一幕です。毎年、地域包括センターなどの方々がいらっしゃり、生徒たちに認知症に関する基礎知識や優しい対応の仕方などを教えてくださっています。さらに、地域の自治会や民生委員の皆さんが劇団を結成して、生徒のためにお芝居を披露。このように本校では、社会とのつながりについて地域の手で子どもたちに教える取組が行われています。

他にも生徒たちは、地域ボランティアとして行事やお祭り、子ども食堂、老人施設、地域清掃など様々な場面で地域の役に立ちながら、同時に地域から社会勉強をさせてもらっています。

多感な十代の頃にたくさん地域参加をしておく、大人になったとき進んで社会に参加し、自分の手で社会をよりよくしていこうと思えるようになると思います。残念ながら日本では「自分で国や社会を変えられると思う。」と答えた若者は18.3%（日本財団2019年調査）しかいませんでした。これは他国の3分の1程度だそうです。

子どもたちを地域社会とつながりをもたせることは、大げさに言えば、将来の国づくりにもつながる大切な教育活動だと思います。昨年度、地域ボランティアで活躍した生徒は延べ204名、全員を舞台の上で表彰しました。ふだん目立たないような生徒も、自己有用感に溢れ、輝いて見えました。このような体験一つ一つが、生徒を肯定的に成長させていると思います。

さて、社会とのつながりに関して、もう一つ欠かせないキーワードが「防災」でしょう。いざ災害が起こったとき、まずは自分の身を守ることが一番ですが、その後、互いに助け合う「共助」の中では中学生も十分に地域を支える一員となります。そこで、まずは「防災」に関する知識が大切となります。本校では今年度、各教科の授業や行事などにおいて適切な機会を捉え「防災」に関する学習を、年間を通じて行います（これを「教科等横断的な学び」と言います）。例えば理科で火山のメカニズムを学んだら、同時に防災についても学習し、それを記録に残していきます。こうして1年間かけて「防災」の知識を蓄え、将来に備えます。

また、今年度も2年生は防災用の仮設トイレ作りを地域の皆さんと取り組みます。さらに、11月16日(日)には本校校庭で地域防災訓練を行うので、たくさんの生徒の参加を呼び掛ける予定です。こうして知識とともに実践でも「防災」を身に付け、八中生が地域を支える頼もしい大人に成長することを期待したいと思っています。